



拉致・国家・人権

北朝鮮独裁体制を国際法廷の場へ

中野徹三・藤井一行 著

政府の対応で拉致問題は解決するのか？ **拉致**は

ナチやスターリン体制、ミロシエヴィチ・民族浄化にも匹敵する **市民の**

人権を奪う大

罪であり、金正日・北朝鮮は人民を抑圧する独裁テ

ロ国家。その歴史と犯罪性を詳述しながら、世界が批准している **ローマ**

条約と国際刑事裁判所での

裁きを提唱。人道の21世紀における「国家と人権」を考察する。

定価 二、〇〇〇円十税

大村書店

第1部 拉致と人権の歴史 中野徹三

はじめに——拉致問題と北朝鮮問題の真の解決とは 6

第1章 拉致の歴史、20世紀前半まで

——もつとも凶悪な「人道に対する罪」としての「拉致」犯罪 17

1 奴隷制期の「人さらい」から20世紀の「国家テロ」へ 18

2 「夜と霧」から「命の泉」まで——ナチスの国家犯罪 23

3 スターリンの大テロル 30

第2章 「人道に対する罪」から見た半世紀

——「世界人権宣言」から「ローマ条約」まで 42

1 二つの国際軍事裁判と「人道に対する罪」の成立 46

2 「世界人権宣言」とその後 53

3 朝鮮戦争・その惨禍と北朝鮮による大量拉致の発生 58

4 東ドイツとシュタージ——その犯罪と終末 65

5 旧ユーゴの「民族浄化」から首謀者に対する国際刑事裁判の開始まで 72

6 「人道に対する罪」としての「強制失踪」のグローバル化に対して 82

第3章 ローマ条約（国際刑事裁判所規程）と人権のたまたかの21世紀 99

1 「ローマ条約」とその新しい特徴 99

2 ICCは日本人拉致事件を捜査・訴追できるか？ 106

3 拉致問題を巡る混迷の中から 114

4 被害者は祖国へ、犯罪者は国際法廷へ 118

参考資料 135

第2部 北朝鮮体制とスターリン体制 藤井・行

序 北朝鮮研究の問題性 158

第4章 個人独裁体制の成立 166

1 粛清 166

2 国家と党と首領 192

第5章 テロ国家 206

1 恐怖政治 206

2 対外国家テロ 227

第6章 北朝鮮人民解放への道 244

1 北朝鮮は社会主義か？ 244

2 北朝鮮Ⅱ金正日体制のゆくえ 258

特別寄稿 北朝鮮と金正日政権にどう対処するか？ 萩原遼 277

附 和田春樹氏（日朝国交促進国民協会事務局長）の「拉致疑惑検証」を検証する 291

- 1 和田春樹氏の「拉致疑惑検証」問題に寄せて 藤井一行 292
- 2 和田―藤井論争を読む 村田淳美 295
- 3 歪んだ「使命感」は何をもたらすか 吉野幸生 314

あとがき 藤井一行 328